公開特許抄録

特開平9-172449

(43) 公開日 平成9年(1997) 6月30日

(51) Int. Cl. "

識別記号

FI

H O 4 L 12/437 = H 0 4 B 10/20

H 0 4 L · 11/00 H 0 4 B 9/00 3 3 1

(21)出願番号

特願平8-278183 .

(22) 出顧日

O.L

平成8年(1996)10月21日

N

審査請求 未請求 請求項の数11

(全12頁)

(71)出頭人

ピレリー・カビ・ソチエタ・ペル・アツィオーニ

(72) 発明者

フルヴィオ・アレッコ、ファウスト・メリ、マルコス・アントニオ

・ブランダオ・サンチェス

弁理士 湯浅 恭三 (外6名) (74)代理人

(31)優先権主張番号 MI95A002154

(32) 優先日

1995年10月19日

(33)優先権主張国

イタリア (IT)

【発明の名称】自己回復リング型透過光通信

(57) 【要約】

光通僧の確実性を保証するために、信号を付 【課題】 加及び除去するノードを含む自己回復型の通信システム を与えること。

【解決手段】 それぞれが閉じた光学的経路(5-1 2) を形成し相互に付加/除去光ノード(1-4) によ って接続された第1及び第2の光通信線路から構成され る自己回復リング型光通信ネットワークであって、前記 光信号付加/除去ノードの少なくとも1つは、更に、少 なくとも1つの光信号を前記第1の通信線路と前記第2 の通信線路とに同時に入力する手段を備えている。

m(4)

【特許請求の範囲】

vil, i,

【請求項1】 第1の閉じた光学的経路を形成する第1 の光通信線路と、

前記光通信線路に沿って光学的に接続された少なくとも 2 つの光信号付加/除去ノードと、

第2の閉じた光学的経路を形成し、前記光信号付加/除 去ノードに光学的に接続された第2の光通信線路と、

を備えており、前記ノードの少なくとも1つが、前記第 1及び第2の通信線路の一方から前記光信号を選択的に 除去する制御された選択手段を備える、自己回復リング 型光通信ネットワークにおいて、

前記光信号付加/除去ノードの少なくとも1つは、更 に、少なくとも1つの光信号を前記第1の通信線路と前 記第2の通信線路とに同時に入力する手段を備えている ことを特徴とする自己回復リング型光通信ネットワー ク。

【請求項2】 請求項1記載の自己回復リング型光通信 ネットワークにおいて、前記光信号の第1及び第2の移 動方向が、前記光信号付加/除去ノードの位置に対して 定義されており、前記第1及び第2の方向は相互に逆で あり、前記ネットワークは、少なくとも1つの光信号 を、前記第1の通信線路に沿って前記第1の方向に、前 記第2の通信線路に沿って前記第2の方向に同時に入力 する手段を備えていることを特徴とする自己回復リング 型光通信ネットワーク。

【請求項3】、 請求項1 記載の自己回復リング型光通信 ネットワークにおいて、光学的に相互に接続された第1 の対の光信号付加/除去ノードを備えており、前記第1 の対のノードの間で伝送される信号は第1の波長を有 し、前記第1及び第2の光学的経路の少なくとも1つ は、光学的に相互に接続された第2の対の光信号付加/ 除去ノードを備えており、前記第2の対のノードの間で 伝送される信号は前記第1の波長とは異なる第2の波長 を有することを特徴とする自己回復リング型光通信ネッ トワーク。

請求項1記載の自己回復リング型光通信 【請求項4】 ・ネットワークにおいて、前記光信号付加/除去ノードの 少なくとも1つは、

それぞれの線路入力及び出力ポートによって前記第1の 光学的経路に直列に接続され、更に、それぞれの信号付 加及び除去ポートを有する第1の光信号付加/除去ユニ ットと、

それぞれの線路入力及び出力ポートによって前記第2の 光学的経路に直列に接続され、更に、それぞれの信号付

(続き有り)

(1)

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明による光通信ネットワークの図である。

【図2】光通信ネットワークに沿って光信号を付加/除去する本発明による光ノードの図である。

【図3】指向性カプラの図である。

【図4】指向性カプテの通過帯域のグラフである。

【図 5】 光通信ネットワークに沿って 2 つの異なる波長を有する信号を付加/除去する本発明による光ノードの図である。

【図 6 】光通信ネットワークに沿って複数の異なる波長を有する信号を付加/除去する再構成可能なノードの図である。









